

自衛隊長野地方協力本部は長野県において、隊員の募集や自衛官の再就職支援業務などを行っています。昨今わが国を取り巻く安全保障環境は急激に変化しており、これまで以上に多様で、質の高い、確固とした意志を持った人材の確保が求められます。そのために、まず長野県民の皆様が自衛隊を知っていただけるよう広報活動に努め、長野の皆様との間に信頼関係を築いてまいります。

皆様に自衛隊を身近に感じていただきたい

—— 自衛隊長野地方協力本部はどんな業務をされている組織ですか。

林 長野県内で自衛官の募集や採用業務とともに、退職自衛官の再就職に係る業務を行っています。これらは、よく「人口と出口」の業務と言われ、健全な組織を作るうえで非常に重要な仕事です。

長野県は自衛隊の部隊が少ないことが特徴として挙げられます。駐屯地が松本市に1つあるだけで、海上自衛隊や航空自衛隊の基地はありません。それゆえ、県民の方々が日頃自衛官を見る機会が少なく、自衛隊に馴染みがない県であると思っております。ちなみに私の出身地の福岡県には、陸上自衛隊や航空自衛隊の基地がいくつもあり、親族や友人に自衛官がいる方も多くいます。また街に出て、制服や迷彩服を見る機会が多いと思えます。

長野の皆様への広報活動を通じて 身近に感じていただける自衛隊に



はやし ひで ひこ
林 英彦氏

自衛隊長野地方協力本部長 一等陸佐

昭和51年福岡県生まれ。防衛大学卒業後、第1飛行隊、第5次イラク復興業務支援隊、第1師団司令部第3部、自衛隊東京地方協力本部、陸上幕僚監部監理部広報室、第14飛行隊長、統合幕僚監部運用部、陸上幕僚監部運用支援・訓練部、教育訓練研究本部教育部などに就き、令和3年9月より現職。

ところで、日本を取り巻く安全保障環境はここ10年15年で一気に変わりました。私はここへ来る前に東京の本省に10年ほどおり、部隊運用に長く携わってきました。特に陸海空すべての自衛隊の運用を総括する統合幕僚監部に所属した経験から、日本の安全保障環境が昨今不透明性を増していることを強く感じています。北朝鮮はミサイルの発射実験を頻繁に行っていますし、中国やロシアは日本近海で非常に多くの活動を行っています。こうした状況を受け、国としても新たな国家安全保障戦略を策定していますし、防衛省、自衛隊も防衛計画の大綱のもと、既存の陸海空に加え宇宙やサイバーなど新たな領域も含めて更なる進化を遂げようとしています。今後自衛隊の精強性を向上させるには、これまでより多様で、質の高い、確固とした意志を持った人材を確保することが非常に大事になってきます。

地方協力本部は自衛隊の中で平時の第1線と

私たちもなるべく皆さんの目に留まるように、昼食を飲食店等でいただく際は、なるべく制服のまま出かけます。松本市でしたら「あっ、自衛隊だ」と気付いていただけのように感じますが、長野市ですと「何の制服ですか」と聞かれることが多いです。こうした土地で人材をしっかりと確保するには、まず県民の皆様が自衛隊とはどういう組織かを知っていただくことが大事です。令和元年の台風19号の折のように、災害時に皆様のお役に立つこと以外にも、日頃各地域における様々なイベントに参加させていただき、自衛官を身近に感じていただくことに努めています。自衛隊という、とかく堅いイメージをお持ちの方も多いかと思いますが、決してそんなことはなく、親しんでいただける部分もごまかれません。たとえば、自衛隊は音楽隊を持っており、随時「ふれあいコンサート」を開催しています。

昨年9月に第34代自衛隊長野地方協力本部長を拝命して1年が経ちました。自衛隊に籍をおいて25年になりますが、平成18年に7ヶ月間イラクの復興業務支援に携わり、平成26年より1年間徳島で飛行部隊の指揮を執った以外は、ずっと東京勤務でした。2回目となる国内地方勤務の機会をこの長野県でいただけたことを大変光栄に思っております。自衛隊を身近に感じていただけるよう努め、長野県の皆様との間に信頼関係を築いてまいります。

言われます。我々が日頃の活動でこうした人材をしっかりと確保することが、最終的に自衛隊の精強性に繋がりますので、我々の活動で自衛隊を知っていただき、一人でも多くの若者が強い意志を持って自衛隊に入ってもらえるよう努めます。

コンサートなどを通じて自衛隊に親しんでいたことも以外にも、こうした安全保障環境についても皆様を知っていただきたく、長野商工会議所をはじめ様々な団体の総会や県内の大学や高校などへ伺い、部外講話というかたちで私がお話をさせていただいています。皆様からテレビだけでは掴みきれない背景や日本への影響について知ることができたと評価もいただいていますので、今後はこのような活動にも力を入れていきます。

自衛官経験者の再就職を ご支援ください

—— 長野商工会議所や地域の企業にご要望な

12月9日にふれあいコンサートを 開催します

—— これからどんな取り組みに力を入れていかれますか。

林 まず、年間を通じて広報活動に努めます。ふれあいコンサートは、コロナ禍でしばらく開催できませんでしたが、昨年後半から商工会議所や防衛協会の方々のご理解と協力のもと、感染対策に万全を期したうえで県内各地で開催しています。また、コンサートに合わせて自衛隊音楽隊がその地域の中学校・高校の吹奏楽部の練習へお邪魔し、演奏技術指導をさせていただいています。長野市では来る12月9日(金)に、ホクト文化ホールでコンサートを開催します。

他にも、産業祭など自治体ごとに開催されているイベントにお声掛けいただいた際には、自衛隊のブースを出展し、装備品や活動写真の展示をします。中央通りにある広報ルームは、今後もっと自由に出入りでき、特に中学生、高校生など若い方も気軽に立ち寄れる場になるよう努めていきます。

自衛官の採用業務についても年間を通して行っています。自衛隊に入る種目は様々で、一番下の階級の2士になるコース、幹部自衛官として進むコース、防衛大学校や防衛医科大学校へ進むコース、自衛隊の持つ高等工科大学校に進学するコース、パイロットとして勤務する航空学生となるコース、他にも普段は民間企業等で働きながら大きな災害時には一時的に自衛官として勤務してもらう予備自衛官になるコースなどがあります。募集種目や日程は長野地方協力本部のホームページで紹介していますのでご覧ください。

どうですか。

林 隊員の再就職についてご支援をいただけたらありがたいと思います。地方協力本部は、自衛隊の「人口と出口」業務を担当していると冒頭で申し上げました。出口について申し上げると、自衛隊員は比較的若く退職します。定年制でも55歳前後で定年を迎える自衛官が多くいます。2〜3年の任期を務めたら20代〜30代半ばで任期満了退職(自衛隊新卒)する隊員もいます。その多くが、大型や特殊車両の免許、危険物取扱等の資格を有しています。また組織における協調性が高く、団結心も強いのが特徴です。実際に退職自衛官が再就職した企業の社長様から採用して良かったとお声も多くいただいています。もし退職自衛官の採用にご関心をお持ちの企業様がありましたら、ご連絡ください。

再三申し上げましたが、広報の機会は今後も積極的につくっていきます。土日でも平日の夜でも構いません。集まる人数が少なくても結構です。自衛隊や安全保障について知りたい、国を守る仕事に就いてみたいという方がいらつしやれば、県内どちらへも伺います。ぜひお声掛けください。

自衛隊長野地方協力本部公式ツイッター

<https://twitter.com/pconagano>

*本インタビューは10月13日に行いました。

林英彦さんの横顔



休日にはバイクでツーリングがてら温泉巡りをしたり、戸隠山や飯縄山へのハイキングを楽しんだりする。信州のクラフトビールや赤ワインもお気に入りとか。